

令和4年4月5日

令和4年度 前期始業式あいさつ

おはようございます。皆さんと直接対面することができず残念ではありますが、本日の令和4年度前期始業式も新型コロナウイルス感染防止のためオンラインで行うことといたします。

今年度より学校長を務めます駒瀬 隆です。41年ぶりの母校、自分が過ごした学び舎とは全く違う様相となっていることに少々戸惑っていますが、身が引き締まる思いで今この場に立っています。また、今朝、皆さんが登校する様子を見ていましたが、生き生きとした表情や友達との楽しそうな姿に私までうきうきとした気分になりました。

なかなか収束の目途が立たないコロナ禍により、私たちを取り巻く状況は大きく変わり様々な制約を受けてきました。そのような状況の中でも皆さんは試行錯誤しながらそれぞれの勉学、行事、班活動等に取り組んできたと聞き及んでいます。今年度もコロナ対策を万全に取りながら、皆さんが充実した高校生活を過ごせるよう、対応していきたいと思っておりますので引き続き協力をお願いします。

話は変わりますが、ロシアのウクライナ侵攻。胸が締め付けられる思いで日々のニュース等を観ている人が多いことでしょう。21世紀の現代において、このような武力による他国への侵攻が起こることを、どれだけの人が予想したことでしょう。ウクライナにおいて多くの無辜（むこ）の命が奪われていることに、大学3年の冬シベリア鉄道等乗り継ぎ、真冬の東ヨーロッパから西ヨーロッパを2カ月ほどかけて旅をし、その途中で訪れたキーウ（キエフ）の街並みやそこで暮らしていた市井（しせい）の人々の日々の営みに思いを馳せると、いたたまれない気持ちになります。

さて、本校の教育目標の一つに、「和して同じない個性の確立につとめ、自主独立の人間となること」とあります。現在の日本は“場の空気を読む”“忖度”あるいはSNS上の誹謗中傷等、多様性が叫ばれているにもかかわらず、依然として「同調圧力」が強い社会であると思えます。さらに、先ほど触れたコロナ禍やロシアのウクライナ侵攻等からもわかるように、これまで以上に予測不可能なことが起こる社会となっていくのではないのでしょうか。そのような社会はストレスが高く、そのはけ口として、社会がある方向に傾いてしまう恐れがあります。その結果どのような結末となるのか、それはこれまでの歴史が物語っています。だからこそ、皆さんには先ほど挙げた本校の教育目標の意味を改めて考え、自分自身を持ち続け、一人ひとりが「私はこう考える」「自分はこう思う」と一人称単数で語ることがとても大切になってくるのではないかと思います。

それと同時に、寛容で、互いを尊重し合うことも、これからますます大切になります。本校で平成4年1月10日に起こった、小野寺仁さんの尊い命が校内で奪われるという痛ましい事件、あれから30年という時が経ちました。もし彼が生きていたなら、丁度皆さんのお父さん世代になるのではないのでしょうか。彼の無念さに思いを巡らし、安心、安全な高校生活を堅持できるよう、互いを尊重し合い、切磋琢磨し、人間として成長していってほしいと思います。

また、承知していると思いますが、この4月1日より成人年齢が18歳に引き下げられました。懸念される点もありますが、18歳すなわち高校3年生から様々な権利が認められることとなります。それと同時に責任も伴ってきます。これまで以上に、個人としての考えや行動が求められ、そのことが予測不可能な時代においても、豊かな社会を構築していくことにつながるのではないかと思います。

皆さんの今年度が実り多き1年となることを期待しています。

最後に、校長室はオープンです。何か話をしたいことがある人はいつでも歓迎します。遠慮なくドアを叩いて入って来て下さい。色んなことを話しましょう。

終わります。